

西諸県地域の普及活動

令和7年6月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 西諸県農業改良普及事業推進協議会総会の開催

30日に、普及センターにおいて普及事業推進協議会総会を開催しました。各市町、関係団体の首長、組長等が出席し、昨年度の実績及び今年度の事業計画案について検討を行いました。

普及センターからは令和6年度普及指導活動実績及び令和7年度の計画について説明を行い、委員からは耐暑性のある水稻品種や麦の普及上の課題について等々様々な質問が出され、盛んに意見が交わされました。また、振興局からは八次長期計画後期について説明行いました。



【実績や計画に質問をする出席者】

2) ドローン一斉防除によるサツマイモ茎・根腐敗症への対応

19日から約2週間にわたり、JAこばやし部会員のかんしょ圃場約150haでドローンによる一斉防除が行われました。植付初期の薬剤散布は、茎・根腐敗症の予防に有効です。また、手作業による農薬散布で要していた作業負担が無くなることも、大きな利点です。



【ドローンによる農薬散布】

3) 6月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年6月期子牛郡品評会が開催されました。

6月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た31頭が出品され、審査の結果、優等賞に5頭、壹等賞に17頭、貳等賞に9頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の橋満徹さん出品の「こすもす」号（孔明桜－美穂国－忠富士）、2席は高原町の入木真一さん出品の「ゆみ」号（孔明桜－美穂国－安福久）、3席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1468」号（孔明桜－富久竜－秀正実）が受賞されました。



【優等賞首席 こすもす号】

受賞牛は発育良好で体積豊か、深さと伸びのある優れた牛であるとの講評でした。

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

25日に、小林市の施設野菜等での就農希望者1名の就農相談会を行いました。親元での就農を予定しており、後継者の就農計画の概要について確認が行われ、今後、活用できる支援策の検討を進めるなど、青年等就農計画の認定を見据えた支援を進めていく予定です。

※就農相談対応(面談)1名

(内訳:小林市:1名 施設野菜等:1名)

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 水稻奨励品種決定調査試験の田植え

11日にえびの市で、水稻奨励品種決定調査試験「南海192号」、「南海194号」の2系統の田植えを行いました。

「南海194号」は、強い高温耐性を持ち、ヒノヒカリ並に優れた食味を持つ品種です。

今後は、生育状況や収量による現地適応性の評価や食味の調査を予定しています。



【田植え作業】

2) 南海189号の展示ほを設置

17日に須木に南海189号の展示ほを設置しました。

南海189号は、ヒノヒカリ以上の高温耐性と、同程度の優れた食味を持つ品種であり、晩生であるため収穫作業の分散も可能です。

令和9年度の本格的な普及や特Aの取得を目指しているため、適宜生育状況を確認し、品種特性などの情報を地域に広めていきます。



【田植え作業】

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会の実施

13～15日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に「害虫の効果的な防除」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。参加した農業者からは害虫の被害による減収の相談などがあり、害虫防除への意識を改めるきっかけになったようです。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行い、良質な自給飼料の増産を目指していきます。



【害虫防除について講習】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 夏まきにんじん水利用の推進

4日に、生産者18人が出席し、令和7年度農協果汁向け加工にんじん栽培講習会が開催されました。普及センターから、にんじんの種まき直後の水利用を伝えました。

今年も猛暑の夏が予想されます。まずは、水利用器具の設置支援・展示を積極的に行い、露地栽培における水利用を推進します。

2) かんしょ生育概況を地域内で共有

25日、26日に、サツマイモ茎・根腐敗症の発生状況を調査しました。今年は、苗の生育遅延や高地温の影響で欠株・植え痛みが目立ちます。また、南九州ではサツマイモ基腐病や茎根腐細菌などが発生しているとの情報が県対策会議で共有されたところです。

今後の定期巡回や研修会で発生拡大防止対策や効率的な防除の啓発に努めます。



【基腐病の発生状況調査】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市、JAこばやしいちご育苗展示ほの調査及び定期巡回

いちごの本圃での栽培が終了し、現在は育苗が行われています。今年は高温対策として、遮光資材や紙ポットなどの展示ほを管内に8カ所設置し、慣行栽培との生育の違いを確認する予定です。

昨年に続き今年も暑い夏となりそうですので、良い苗ができるよう高温対策だけでなく灌水など基本的な管理についても助言を行っていきます。



【ポットの温度比較試験】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果樹農業振興推進対策協議会及びJA梨ぶどう生産部会合同役員会が開催

11日に、小林市役所において標記役員会が開催され、生産者6名、関係機関5名が参加しました。はじめに振興局から、暑熱対策に係る事業や改植事業についての説明があり、どのような内容で事業が活用できるのか意見交換を行いました。その後、県外視察についての検討を行い、7月14日～15日で山梨県へぶどう優良事例や後継者対策の視察を行うことが決定しました。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) キイチゴベビーハズの県産品点検

9日に、県内6産地のベビーハズの品質等調査が、東京の大田市場で実施されました。管内から小林市とえびの市から2点が供試されました。これは品質や出荷規格の状況等を調査し、今後の品質改善につなげていくことを目的に、県の事業として実施しているもので、調査は東京に駐在している県や経済連の職員が行いました。

管内産のベビーハズは概ね品質が良好との評価を受けましたが、県全体としては品質を揃えていくことが課題であることが分かりました。



【出荷されたベビーハズ】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) JAこばやし令和7年度産夏秋きゅうり栽培・出荷講習会の開催

4日、三ヶ野山出張所にて、標記講習会が開催されました。普及センターからは、夏秋きゅうりの仕立てや灌水などの基本管理、高温対策、病虫害防除、台風対策などについて説明しました。特に高温対策については生産者の注目度が高く、スプリンクラーを使い葉水を打つ管理方法などについて質疑がありました。

今年の夏も暑い予報となっていますので、遮光やスプリンクラーの設置、外気導入などの対策を支援していきます。



【出荷方法の説明を聞く生産者】

2) JAこばやしピーマン部会の天敵資材メーカー視察に同行

11日に、熊本県にある株式会社アグリ総研九州支店にて、天敵資材の視察を行いました。当地域では農作物に甚大な被害を及ぼす害虫の防除として天敵が導入され始めています。今回、天敵資材メーカーを視察し、天敵の特性や効果的な使用方法について学ぶことができました。参加した生産者からは、天敵の温存方法などについて質問がありました。

今後は、害虫による被害を抑えるため、当地域では農薬だけでなく天敵を活用した防除体系を確立していきます。



【天敵の説明を聞く生産者】

3) 西諸県地区果樹技術員会第2回定例会の開催

11日に、JAこばやし三ヶ野山出張所にて第2回定例会が開催され、関係機関12名が参加しました。室内会議では、暑熱対策や産地計画の更新、改植などについての協議を行いました。また、旬のマンゴーの食味調査も行い、品種や秀品率により味や食感が異なることを共有しました。現地では選果場見学や園地見学を行いました。次回の技術員会は8月5日に開催し、クリ着実調査を行う予定です。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【室内会議】

4) クリ着花状況の調査

27日に、JAえびの市担当者と須木支所担当者とクリ着花調査を行いました。各2園地で5樹、10結果母枝の着花数を数え、1結果母枝あたりの平均は平年並みとなりました。生理落果後の着実調査は7月30日の技術員会で行う予定です。

5) 生駒高原活性化に向けた花のフォトスポットの整備

20日に、生駒地区の鉢苗物生産者3名で構成する「鉢苗物で町を彩る推進会議」と市、県の担当者7名が参加して、生駒高原内に設置されているフォトスポットの除草や土壌改良をしました。今後は地区内で生産された花の定植を予定しています。花の少ない時期に人を呼び込む方策の検討を、花の駅生駒高原や生産者と続けていきます。



【除草作業する参加者】